



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月10日

上場会社名 松本油脂製薬株式会社  
 コード番号 4365 URL <http://www.mtmtys.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 直樹

問合せ先責任者 (役職名) 管理部副部長 (氏名) 勘田 浩之

TEL 072-991-1001

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	10,493	22.8	2,222	74.8	3,723	149.9	2,591	145.9
2022年3月期第1四半期	8,546	31.0	1,271	94.7	1,490	86.5	1,054	82.8

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 2,487百万円 (102.5%) 2022年3月期第1四半期 1,228百万円 (91.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	801.10	
2022年3月期第1四半期	325.76	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	77,712	64,746	83.1
2022年3月期	76,207	63,392	83.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 64,577百万円 2022年3月期 63,237百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		350.00	350.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		350.00	350.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000	10.1	6,970	21.0	8,270	6.9	5,720	4.2	1,767.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	4,512,651 株	2022年3月期	4,512,651 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,277,194 株	2022年3月期	1,277,085 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	3,235,480 株	2022年3月期1Q	3,235,823 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、各国政府による新型コロナウイルス感染防止対策と経済活動の両立が進んだことなどから消費や投資が拡大し、概ね回復基調で推移いたしました。しかしながら海上運賃の高騰や一部でのコンテナ確保難等の物流の混乱は未だに収まる気配がありません。また、感染症の再拡大や世界的な半導体不足による自動車の減産に加え、原料価格の高騰や調達懸念等が続く中、ロシア連邦によるウクライナへの軍事侵攻の長期化など世界情勢は不安定なまま推移いたしました。

国内においては、新型コロナウイルス感染症感染防止対策としてのワクチン接種率の上昇に伴い感染者数が減少し社会活動は正常化へと向かいましたが、外国為替相場が円安方向に急激に変動したことなどから物価上昇圧力が高まり、先行きの不透明感は更に強まっております。

当社グループとしましては、世界的な経済環境の不安定さと変動リスクの長期化を踏まえ、引き続き高品質で価格競争力のある製品の開発を行うとともに、新規顧客・用途開拓活動の推進により収益の維持・向上を進めているところであります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高10,493百万円(前年同四半期比22.8%増)、営業利益2,222百万円(前年同四半期比74.8%増)、経常利益3,723百万円(前年同四半期比149.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益2,591百万円(前年同四半期比145.9%増)となりました。

セグメント情報に記載された区分ごとの状況

#### ① 日本

日本における当第1四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は10,280百万円(前年同四半期比22.2%増)、セグメント利益(営業利益)は2,223百万円(前年同四半期比75.5%増)となりました。

陰イオン界面活性剤の分野におきましては、国内繊維での産業資材用途は自動車の生産量減少の影響を受けており、衣料用途は底を打ったものの十分な回復には至っておりません。海外向けは総じて堅調で、外部顧客に対する売上高は939百万円(前年同四半期比19.3%増)となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、国内でのスポーツ衣料向けは好調に推移しているものの、ユニフォーム・カジュアル分野はテレワークの増加により低調となっており、自動車向け資材も生産調整により低迷しています。非繊維工業分野ではトイレタリー向けは好調でしたが、自動車向けが販売縮小となりました。海外向けは総じて好調で、外部顧客に対する売上高は6,499百万円(前年同四半期比24.2%増)となりました。

陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、国内での繊維衣料用加工剤やシャンプー・家庭用洗剤向けは好調でしたが、海外向けは低調となり、外部顧客に対する売上高は212百万円(前年同四半期比20.9%減)となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、繊維工業関連では衣料の国内生産は引き続き低迷しました。非繊維工業関連では国内では自動車メーカーの生産調整の影響を受けましたが、海外では拡販が進み、前年同期を上回る販売となりました。その結果、外部顧客に対する売上高は2,629百万円(前年同四半期比23.6%増)となりました。

#### ② インドネシア

インドネシアにおける当第1四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は212百万円(前年同四半期比62.7%増)、セグメント利益(営業利益)は16百万円(前年同四半期比65.8%増)となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、顧客の工場稼働の回復や精練加工剤の新規採用もあり、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻りつつあります。その結果、外部顧客に対する売上高は128百万円(前年同四半期比38.6%増)となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、国内向けの市場は縮小したままですが、一方で海外向けの販売量は回復傾向にあります。その結果、外部顧客に対する売上高は81百万円(前年同四半期比131.1%増)となりました。

陰イオン界面活性剤及び陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、販売数量、販売金額ともに進展は見られませんでした。外部顧客に対する売上高はそれぞれ1百万円(前年同四半期比36.7%減)及び1百万円(前年同四半期比193.8%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という。）比1,505百万円（2.0%）増加して、77,712百万円となりました。流動資産は前期末比1,858百万円（3.1%）増加の62,135百万円、固定資産は前期末比352百万円（2.2%）減少の15,577百万円となりました。

流動資産増加の主な要因は、その他が1,010百万円、受取手形及び売掛金が134百万円前期末より減少の一方、現金及び預金が2,120百万円、商品及び製品が561百万円、原材料及び貯蔵品が193百万円前期末より増加したことによるものであります。

固定資産減少の主な要因は、建設仮勘定が56百万円前期末より増加の一方、機械装置及び運搬具が80百万円、建物及び構築物が31百万円前期末より減少したことによるものであります。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債の合計は、前期末比151百万円（1.2%）増加の12,965百万円となりました。流動負債は、前期末比121百万円（1.1%）増加の11,526百万円、固定負債は前期末比30百万円（2.1%）増加の1,439百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、未払法人税等が668百万円、賞与引当金が272百万円減少の一方、その他が577百万円、買掛金が484百万円前期末よりそれぞれ増加したことによるものであります。

固定負債増加の主な要因は、繰延税金負債が40百万円増加したことによるものであります。

#### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前期末比1,354百万円（2.1%）増加して64,746百万円となりました。純資産増加の主な要因は、利益剰余金が当第1四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により2,591百万円増加の一方、剰余金の配当により1,132百万円減少したことによるものであります。

この結果自己資本比率は、前期末の83.0%から83.1%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の国内外の経済環境につきましては、海上運賃の高騰や一部でのコンテナ確保難等の物流の混乱や、原料価格の高騰や調達懸念等の供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクなど、先行きが不透明な状況は継続するものと思われまます。

このような状況におきまして、当社グループといたしましては、引き続き高品質で価格競争力のある製品の開発を行うとともに、新規顧客・用途開拓活動の推進により収益の維持・向上を進めているところであります。

2023年3月期の連結業績予想につきましては、合理的な算定が困難であるため未定としておりましたが、最近の事業環境及び業績動向等を踏まえ、通期業績予想を算定しました。詳細につきましては、本日(2022年8月10日)公表しました「通期業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	43,654	45,775
受取手形及び売掛金	9,989	9,855
電子記録債権	260	266
有価証券	1	1
商品及び製品	2,425	2,987
仕掛品	611	732
原材料及び貯蔵品	1,393	1,587
その他	1,946	935
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	60,276	62,135
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,467	8,496
減価償却累計額	△5,841	△5,901
建物及び構築物（純額）	2,625	2,594
機械装置及び運搬具	14,501	14,557
減価償却累計額	△11,654	△11,791
機械装置及び運搬具（純額）	2,846	2,765
土地	530	531
建設仮勘定	5	61
その他	1,474	1,473
減価償却累計額	△1,329	△1,330
その他（純額）	145	143
有形固定資産合計	6,153	6,097
無形固定資産		
その他	31	29
無形固定資産合計	31	29
投資その他の資産		
投資有価証券	8,838	8,502
繰延税金資産	10	10
その他	900	941
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	9,745	9,450
固定資産合計	15,930	15,577
資産合計	76,207	77,712

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,436	8,920
未払法人税等	1,708	1,039
賞与引当金	332	60
その他	927	1,505
流動負債合計	11,404	11,526
固定負債		
退職給付に係る負債	993	984
資産除去債務	111	111
繰延税金負債	231	271
その他	72	71
固定負債合計	1,409	1,439
負債合計	12,814	12,965
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,090	6,090
資本剰余金	6,518	6,518
利益剰余金	56,049	57,509
自己株式	△7,326	△7,327
株主資本合計	61,332	62,790
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,891	1,731
為替換算調整勘定	△47	2
退職給付に係る調整累計額	60	53
その他の包括利益累計額合計	1,905	1,786
非支配株主持分	155	169
純資産合計	63,392	64,746
負債純資産合計	76,207	77,712

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	8,546	10,493
売上原価	6,300	7,200
売上総利益	2,245	3,292
販売費及び一般管理費	974	1,070
営業利益	1,271	2,222
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	57	79
持分法による投資利益	34	16
為替差益	68	1,202
その他	60	204
営業外収益合計	223	1,503
営業外費用		
支払利息	0	0
投資事業組合運用損	2	-
支払手数料	1	1
その他	0	0
営業外費用合計	4	1
経常利益	1,490	3,723
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除却損	1	0
投資有価証券売却損	0	-
棚卸資産廃棄損	-	22
特別損失合計	1	22
税金等調整前四半期純利益	1,488	3,700
法人税、住民税及び事業税	321	990
法人税等調整額	109	113
法人税等合計	431	1,104
四半期純利益	1,057	2,596
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,054	2,591



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,057	2,596
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	100	△160
為替換算調整勘定	16	27
退職給付に係る調整額	9	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	44	30
その他の包括利益合計	171	△108
四半期包括利益	1,228	2,487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,219	2,473
非支配株主に係る四半期包括利益	8	14

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
陰イオン界面活性剤	787	2	790
非イオン界面活性剤	5,232	92	5,324
陽・両性イオン界面活性剤	269	0	269
高分子・無機製品等	2,126	35	2,162
顧客との契約から生じる収益	8,415	130	8,546
外部顧客への売上高	8,415	130	8,546
セグメント間の内部売上高 又は振替高	84	13	98
計	8,500	144	8,644
セグメント利益	1,266	9	1,276

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,276
棚卸資産の調整額	△5
四半期連結損益計算書の営業利益	1,271

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
陰イオン界面活性剤	939	1	940
非イオン界面活性剤	6,499	128	6,627
陽・両性イオン界面活性剤	212	1	214
高分子・無機製品等	2,629	81	2,710
顧客との契約から生じる収益	10,280	212	10,493
外部顧客への売上高	10,280	212	10,493
セグメント間の内部売上高 又は振替高	105	2	108
計	10,385	215	10,601
セグメント利益	2,223	16	2,239

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,239
棚卸資産の調整額	△17
四半期連結損益計算書の営業利益	2,222